

i 基本情報



四季色のさんぽ路

津和野は山に囲まれた町。
四季おりおりの表情を見せる場所。
春は桜、秋は銀杏や紅葉を楽しみながら、
城址に登って、町を上から見下ろそう。
お弁当をもって、心地よい日差しと
川面を見ながらおさんぽする、約6km・3時間、
津和野の四季を楽しむ、四季色のさんぽ路です。



(無断転載・複製禁止)

平成25年2月1日発行
製作・運営:つわ乃燈火会
編集・発行:津和野町営業課
お問い合わせ
●津和野町役場営業課(平日のみ)
TEL:0856-74-0092 E-Mail: eigyou@town.tsuwano.lg.jp
住所:〒699-5292 島根県鹿足郡津和野町日原54-25
●一般社団法人津和野町観光協会(土・日・祝日)
TEL:0856-72-1771



秋



さんぽ路の風景

秋には黄色に色づく銀杏並木、真っ赤に色づくもみじや楓。
冬には真っ白な雪でおおわれる。
また、夜空を見上げれば都会では見ることのできない
満天の星空が、あなたを待っています。
さあ、あなたが好きな津和野の色を、探してください。



春

あなたの住んでいる所には、自然の色が何色ありますか？
津和野は小さな町ですが、四季を通して、色をかせ、
私たちをなごませてくれます。
春には桜やつつじのピンク、菜の花の黄色。
夏には花菖蒲やあじさいの紫、日に照らされた緑、
川辺に飛ぶ黒トンボやさざ。



夏



さんぽ路3つの約束

スタートからゴールまでスタスタ歩いては、
津和野の魅力は半分しか見えません。
津和野さんぽ路を目一杯楽しんでもらうため、3つの約束を作りました。
この3つの約束を守って、津和野のまちを満喫してくださいね。

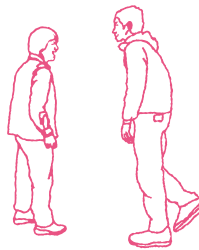
1. 遠回りすること

目的地が明確であっても、
とにかく遠回りをしましょう。
ふと立ち止まってみるのもいいかも。
歩くことを、楽しんでください！



2. 挨拶すること

さんぽ道の基本姿勢！
赤ちゃんからおじいちゃん、
遊びにきた人にも住んでいる人にも、
出会う人全員に挨拶をしましょう。
それだけで、楽しいさんぽになります。



3. 案内人を探すこと

あなたが手に取った
「津和野さんぽ路」の案内人を探してみてください。
案内人が、紙面では紹介しきれ
なかったストーリーやスポットを
教えてくれるはずです。



津和野さんぽ路とは

「津和野の楽しさは、津和野に住む私たちが一番知っている！」
そんな想いから生まれたのが、この「津和野さんぽ路」です。
津和野の魅力とたくさん出会ってもらえるように、
私たちひとりひとりが案内人として、あなたに津和野の町を紹介します。
案内人ごとに、いろいろな「テーマ」があります。
あなたが気になったテーマや、一緒に歩きたいと思う案内人のマップを使
って、津和野で最高の時間を過ごしてもらえることを願っています。
津和野燈火会より



さんぽ路の案内人



案内人プロフィール
吉永 よしか
年齢:1965年生まれ
津和野歴:21年 千葉からお嫁にきました
私はココにいます:鯉の米屋
好きなこと:よさこい、猫と遊ぶこと
「つわの風雅蒼涼」というチームで活動中。
外で体を動かすのが好き! 猫好きな方、我が家のにゃんこに会いにきてね。



津和野のここが好き!

都会にはないのどかさ、四季折々の色が津和野の好きなところ。一見同じ山の緑でも、季節によって色を変えています。刺激はないけれど、のんびりと自然を楽しんでもらいたいです。同じ路を通っても、春には春の、秋には秋の景色があります。
人があたたかいのも津和野のいいところ! 津和野のこどもたちは自分から町の人や観光客に挨拶をしてくれます。さんぽ路の途中で津和野のこどもたちと出会ったら、ぜひ声をかけてあげてくださいね!



色鮮やかな四季を見つけて

こんな人におすすめ!

都会には無い四季を味わいたい!
お弁当を持って、ピクニックをしたい!

Pickup!

6 津和野城址

—— 四季を見下ろす展望台。



津和野のランドマークである津和野城址。明治の廃城令により壊され、いまの姿に。いまは津和野を見下ろす展望台としても、とっても良い場所! リフトを降りてから本丸までは約15分。春は桜の桃色、夏は稲の緑色、秋は稲穂の金色。お日様に照らされた石州瓦の赤色は、どこか異国にきたような、まさしく「津和野」という景色。初めて津和野にきた人にはぜひ行ってもらいたいところ。秋には霧の上に城が浮かびます。

ここで一息 津和野の町をみながら、お弁当を食べましょう! 一つしかないベンチで食べるのもよし、草の上に座るのもよし。

9 弥栄神社

—— 深紅の紅葉と秋の味覚

津和野町は小さい町だけれど、行事が多くて大忙し。体育の日に本町で「あびす講祭り」、11月15日には稲成神社で「稲成大祭」、ほかにも松林山天満宮大祭、奴道中など。10月第三日曜日に弥栄神社で行われる「地酒と芋煮の会」も大盛況! あぶり鯛のだし汁に里芋をいれたシンプルな芋煮を、紅葉を見ながら頂けます! 吉永家では根菜+すまし汁+里芋の芋煮です。



10 季節菓子

—— 薄紅色の桜餅

津和野には和菓子屋さんがたくさんあり、春には桜餅・苺大福が並びます。関東に住んでいた私にとって、桜餅と聞くと、小麦粉で作られた薄いクレープ状の桜餅が思い浮かびますが、津和野に来て桜餅を頼むと…つぶつぶした道明寺粉の桜餅しかない!? いろんなお店で食べ比べてみてくださいね。秋には栗のお菓子もおすすめ!



Pickup!

5 嘉楽園

—— 桜と銀杏、黄色の鳥居。



津和野藩主、亀井家の藩邸があった場所。春は桜、秋は銀杏がとても綺麗! なかにはなぜか銀杏の色とよく似た黄色い鳥居が…。もともと木でできた鳥居が建っていたのですが、数年前に崩れてしまったそう。戦没者の碑を管理している方が鳥居を再建したときに、その場の勢いで黄色のペンキで塗ってしまったとか。普段は静かだけれど、春には地元の人たちのピクニックの場所として賑わいますよ!

4 津和野川

—— 桜と菜の花、川のいきもの



津和野川の菜の花は、地元の人が勝手に蒔いたもの。そんな津和野川には、生き物が26種類いて、なかにはなんとすっぽんも! 私のある友人は、津和野川沿いで出会ったすっぽんを鍋にしようと、指を噛まれないように、わざわざはいていたパンツを脱ぎ、くるんで持ち帰ったことがあります。ところが家族の反対を受けてしまったので、しぶしぶ料理屋さんに預けることに。料理人も情がわいてしまい、とうとう川に帰してあげてしまったとき。「パンツのすっぽん」は、今も川の中で元気に暮らしているかも?

7 「桜三本」

—— 桜+松+もみじ! 四季で姿を変える奇跡の木

総霊社の角にある桜の木は、他の桜とはちょっと違う。なんと桜の木の中腹から「松」と「もみじ」が生えているではありませんか! 松ともみじの幹も太く、桜の幹からしっかりと生えています。どうやら昔から生えていたようですが、地元の人もほとんど知りません。春には桜が咲き、松葉は深緑、もみじは新芽の赤ちゃん。秋には桜が緑の葉につつまれ、松はかぎりなく新緑を保ち、もみじはここ本番とばかりに真っ赤に色づきます。1年を通して和ませてくれ、生命力を持っている1本の桜! 「桜三本」と名付けたこの桜を見て、あなたもHappyな気分を味わってくださいね!



Pickup!

3 夜桜ライトアップ

—— 闇夜に浮かぶ桜色



昼の桜だけでなく、夜の桜もいいもの。津和野の夜桜ライトアップは、2012年の春から始まりました。桜のつぼみがほころぶ頃、地元有志の間で「桜をライトアップしよう!」と酒を飲みながら思いつき、わずか数日でライトアップ実現にこぎ着けました。そのきっかけは、「津和野の町を桜でピンク色にしたい!」という想いから。役場に相談し、ライトアップの機材を急いで揃え、地元有志が機材を設置。夜は真っ暗な津和野のなかで、一番明るい場所になりました。津和野の桜は3月末から4月初旬が見頃。町民センターの裏側で、夜桜を見ながら飲み会をしている地元民にであうことがあるかも!?

お弁当

—— 外で食べよう

このコースでは、外でお弁当を食べることをお勧めしています! 持ち帰りできるお店は①「くぼた」⑧「美松食堂」。「くぼた」のかしわめし弁当は3色のご飯、「美松食堂」のおいなりさんは、なんと黒色! 飲み物でおすすめなのが、津和野の名産である「まめ茶」のペットボトル。鯉の米屋やその隣の自販機などで、冬を除き、入手できます。

2 舞姫

—— 津和野に咲く、鵜外の桜

2012年の森嶋外生誕150周年を記念して植えられた新種の八重桜。淡紅色の、上品な桜です。町民センターの裏側、鵜外記念館と道の駅なごみの里で見ることがができます。ソメイヨシノの後に咲くので、4月中旬頃が見頃!

